

船井情報科学振興財団 2016年度 留学報告書 (7月)

ケンブリッジ大学工学博士課程デザインマネジメント専攻
重本祐樹

【正課活動】

本博士課程に入学してから、あっという間に3年が経過してしまいました。報告書もこれで6本目でしょうか。現在は大方のデータ分析も終え、どこまでの研究成果を博士論文とすることを検討しながら構成を練り直しています。骨子は完成し、年内を目途に執筆を終えようと思っています。同時に、この博士研究から（博論には載せないデータも含め）、学会誌投稿用に数本執筆しようかと考えており、向こう一年はアウトプットに力を割きたいと思います。

また、この夏は東京にて2ヶ月間ほど、マネジメントコンサル会社でインターンシップを予定中です。この機会を通じ、実際の産業の現場でのデザインに対する認識と、私が今まで研究して来たデザインの知の間に介在する乖離はどの程度なのか、また私の学識は実践でどれほど有用であるのか、それと共に座学や研究者としての現場観察だけでは見えて来なかった実情も掬い取ることが出来れば、という思いがあります。理論と実践の両輪から深くアプローチできる経営学者として、成長して行けるよう邁進する所存です。

【課外活動】

本年で部活動も最後になります。バドミントンもボートも、あっという間に最後の Varsity Match、May Bumps を向かえてしまいました。

バドミントンもボートも、過年度と同じ様に、練習に励み、試合に臨み、しかしこれで公式にケンブリッジやセルウィンのユニフォームを着て闘うのも最後かと思っていると、全試合が終わった後にふと力が抜け、虚ろな感情が身体の中を満たして行きました。とりわけ、最後の年も結局どちらのスポーツでも一軍に上がる目標は叶わず、今後も一生付きまとうであろう悔しさだけが残りました。なぜ自分はずっと背が高くないのか、なぜずっと筋肉の質が良くないのか、なぜずっと俊敏性や柔軟性がないのか、理想を挙げればきりがありません。個々人によって目指す場所は十色かとは思いますが、そこに到達できなかった時に現実と向き合うのは、大きな苦痛を伴うと思います。意味のある敗北もある、とはよく聞かれる言い回しですが、やはり勝利に勝る価値は無いと、個人的には思います。この経験を最低でも「意義ある敗北・失敗」とする為、今後の勝利や成功に繋がられるよう、心機一転頑張りたいと思います。

それでも、日本から見て最西端の異国の地に、1年にたった1日の試合の為に、数分感のレースの為に、一年間共に厳しい鍛錬を積む仲間が出来た事は、私の人生の糧となるとともに、それらの功績として受けた紳士倶楽部 **Hermes Club** のブレザーは、今後の私の人生において、何かの挑戦の度に、きっと私の背中を押してくれる誇りと自信になることは疑いませぬ。

以上で博士課程3年目の後期報告を終えさせていただきます。船井財団にご支援頂く期間も終わり、自分の中で一つの節目であると共に、次に報告書をしたためているときには、博士として。最後まで読んで頂き、ありがとうございました。青竹の香と蟬時雨の移ろいを $\Sigma d(\cdot \omega \cdot)$

2016年7月 重本祐樹